

～読んでみない？こんな本～

王さまと九人のきょうだい

君島久子訳 赤羽末吉絵 岩波書店



むかし、イ族のある村に、年寄りの夫婦が住んでいました。二人には子供がなかったのですが、その事をなげいたおばあさんが池のほとりにいると、ひとりの老人が現れ、丸薬を九粒くれます。この薬を飲むと子供ができるということです。おばあさんは最初に一粒飲むのですが、一向変わりません。残りの薬も全て飲むと、見る見るうちにおなかが大きくなって赤ん坊が9人生まれます。顔も体つきもそっくりな九人の兄弟の名は「ちからもち」「くいしんぼう」「はらっぱい」「ぶってくれ」「ながすね」「さむがりや」「あつがりや」「切ってくれ」「みずくぐり」というのでした。

表紙には頼もしい顔つきをした九人の兄弟が描かれています。この兄弟がそれぞれの名の通りの働きをして、わがままな王さまを懲らしめます。大きなお鍋に炊かれたたくさんのご飯をすべて食べつくしてしまう「くいしんぼう」。炎の中にいても涼しげな顔をしている「さむがりや」など兄弟が出てくるたびに想像もつかないような活躍に驚かされると同時に、その豪快さに胸がスツとする中国の民話です。お話し会などでも取り上げることがあり、兄弟の印象が強く残るようでよく貸し出されています。

また先日は、本棚の前に座ってお母さんにこのお話しのことを自分が活躍したように、自慢げに話しているお子さんがいました。この子はお話の世界に入ってこのお話しを一緒に体験し、楽しんできたのかもしれないなあと感じた出来事でした。